

Ⅶ競技方法

	低学年	中学年	高学年
ボール	3号球	3号球または4号球	4号球
人数	5人(フォワード1人、ハーフバック1人、バックス3人)	7人(フォワード3人、ハーフバック1人、バックス3人)	9人(フォワード3人、ハーフバック1人、バックス5人)
1 キック オフ 及び ドロップ アウト	① キックオフの代わりに、ハーフウェイライン中央においてタックキックからのパスを行う。	① キックオフはハーフウェイラインの中央から、ドロップアウトは10メートルライン上あるいはその後方の任意の地点から、それぞれ行う。	
	② ドロップアウトの代わりに5メートルライン中央より、タックキックからのパスを行う。	② 得点後のキックオフは、得点した側のチームがハーフウェイラインの中央、またはその後方から行う(中学年では、ドロップキックの代わりにパントキック、プレースキックが許される)。	
	③ 得点後のキックオフは、得点された側のチームがハーフウェイライン中央において、タックキックからのパスとする。	③ キックオフは相手側の5メートルラインに達しなくてはならない。達しなかった場合はハーフウェイライン上中央のスクラムで再開する。ボールの投入はキックをしなかった側が行う。	
	確認 防御側は5m下がり、 オフサイドの解消は、パスを受けた時点	確認 キックオフが相手に触れずインゴールに入った場合⇒ブレイオン ⇒タッチダウンの場合⇒キックオフのやり直しまたは相手ボールのセンタースクラムで再開 キックオフが直接タッチラインを超えた場合⇒相手ボールでのセンタースクラムまたはキックオフのやり直しまたはハーフウェイライン上のラインアウトのオプションで再開	
2 キック	① プレーを開始及び再開するためのタックキック以外のキックは禁止であり、これに反した場合はキックが行われた地点で相手にスクラムが与えられる。	① ダイレクトタッチは10メートルライン内からのみ許される。10メートルラインの外からのキックが直接タッチに出た場合は、キックした地点で相手側にスクラムが与えられる。	
		確認 相手に触れずデットボールラインを超えた場合⇒キックした地点の相手ボールのスクラムまたはドロップアウトで再開	
3 タック ブック	① ミニ・ラグビーにおけるタックキックは、ボールを地面に置き、手を使わず足だけでボールに明確に触れることである。		
	② すべてのペナルティにおいて、反則を犯さなかった側はタックキックによってプレーを再開する。その際、相手側は反則のあった地点からゴールラインに平行して少なくとも5メートル下がる。		
4 スクラム	防御側のスクラムオフサイドラインがスクラムより3メートル下がっていることをいいことに、スクラムからボールが出る前に攻撃側のプレーヤーが後方より勢いをつけて走り込み、ハーフバックからフラットなパスを受けて突進を試みるプレーは、ペナルティキックまたはフリーキックにおけるいわゆる「キャバルリー・チャージ」に相当し、競技規則に反するプレーである。		スクラムからの「キャバルリー・チャージ」に相当するプレーを罰則対象とはしない。これは、攻撃側にも、スクラムの最後尾から3mのオフサイドラインが設けられているためである。したがって、このようなプレーは起こりえず、起きた場合は、オフサイドの反則である。
	① スクラムはフロントロー1人で構成する。	① スクラムはフロントロー3人で形成される。	
	② スクラムを組み合う際、双方のフロントローは左右の足の位置をフラット(前後しない)にして、相手の上腕に軽く触れ、その後穏やかに組み合う。その際、お互いのフロントローは、左手は相手フロントローの右腕の内側、右腕は相手フロントローの左腕の外側になるようにして、相手フロントローのジャージーの背中または脇をつかむ。	② フロントローのうち、中央のプレーヤーをフッカー、その両側のプレーヤーをプロップという。 ③ フッカーは味方の両プロップの腕の上からその身体に腕をまわして、しっかりとわきの高さか、またはその下をつかまなければいけない(いわゆるフッカーのオーバーバインドの組み方。肩口は脇の高さとは認められない)。プロップも同じようにフッカーをつかまなくてはいけない。	
	③ 頭と肩が腰より低くならないようにまっすぐ組む。	④ スクラムを組み合う際、相対する双方のフロントローと目を見つめさせ、双方のフロントローは左右の足の位置をフラット(前後しない)にして、腰を落とし組み合う準備の姿勢を取らせる。レフリーはこの姿勢を【クラウチ】のコールで確認し、【タッチ】のコールで相手の上腕に軽く触れさせる。【ホールド】のコールで相手をつかんだまま静止状態を維持させ、その後穏やかに組み合う【エンゲージ】。その際、お互いのフロントローのうち、左プロップは、左手を相手フロントローの右腕の内側に、右プロップは、右手を相手フロントローの左腕の外側になるようにして、相手フロントローのジャージーの背中または脇をつかむ。	
	④ スクラムが終了するまでバインドしていなければならない。	⑤ すべてのプレーヤーが頭と肩が腰より低くならないようにまっすぐ組む。「ノンコンテストスクラム」ではあるが、お互いの体重を支え合うように組まなければならない。	
	⑤ ボール投入は行わず、その代わりにあらかじめ攻撃側プレーヤーの右足元(つま先の前)にボールを保持する。そのボールを右足の裏で後方に押し出すことでプレー再開とする。	⑥ スクラムを形成するプレーヤーは、スクラムが終了するまでバインドしていなければならない。	

Ⅳ競技方法

	低学年	中学年	高学年	
4 スクラム	⑥ 防御側のハーフバックのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの後方の足を通りゴールラインに平行な線である。ただし、スクラムから1メートル以上離れるプレーヤーはハーフバックではなく、バックと見なされる。	【中学年限定】	【高学年限定】	
	⑦ 防御側のバックのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの後方の足から3メートル下がったゴールラインに平行な線である。	⑦ ボール投入は行わず、その代わりにあらかじめフッカーの右足元(つま先の前)にボールを保持する。そのボールをフッカーが右足の裏で後方に押し出すことでプレー再開とする。	⑨ スクラムは「ノンコンテストスクラム」であり、ボールの取り合い、押し合いはなく、ボール投入側が必ずボールを獲得するが、ハーフバックは、スクラムの中央に、まっすぐボールを投入しなければならない。ボール投入側が誤って相手側にボールを蹴ってしまった場合は、そのままプレーを続ける。フッカーは、故意にボールを相手側に蹴り出したり、自チームオフサイドラインまでボールを搔いてスクラムを終了させたりしてはならない。	
	⑧ スクラムにおいてのオフサイドラインの解消は、ボール投入側のハーフバックのパスを、バックのプレーヤーがキャッチした時点とする。	⑧ スクラムが組まれるとオフサイドラインが生じる。 ア) 防御側のバックのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの一番後方の足から3メートル下がったゴールラインに平行な線である。	⑩ スクラムが組まれるとオフサイドラインが生じる。 ア) スクラムに参加しないプレーヤー(ハーフバックを除く)のオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの一番後方の足から3メートル下がったゴールラインに平行な線である。	
	⑨ スクラムでは、プレーヤーの習熟度に応じて、頭を組み入れず、お互いの上腕をつかみ合うハンドスクラムを行うことができる。	イ) 防御側のハーフバックのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの一番後方の足を通りゴールラインに平行な線である。但し、スクラムから1メートル以上離れるプレーヤーはハーフバックではなく、バックと見なされる。その場合のオフサイドラインは「ア」が適用される。一旦、「ア」で定められたオフサイドラインに下がったハーフバックはスクラムが解消されるまで、そのオフサイドラインを超えてプレーすることはできない。	イ) スクラムにおいてボールを投入しない側(防御側)のハーフバックのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの一番後方の足を通りゴールラインに平行な線である。但し、スクラムから1メートル以上離れるプレーヤーはハーフバックではなく、バックと見なされる。その場合のオフサイドラインは「ア」が適用される。一旦、「ア」で定められたオフサイドラインに下がったハーフバックはスクラムが解消されるまで、そのオフサイドラインを超えてプレーすることはできない。	
	確認 オフサイドの解消は、パスを受けた時点 ハーフバックのサイドアタック不可	ウ) スクラムにおいてのオフサイドの解消は、ボール投入側のハーフバックがボールをパスした時点とする。	【例外】 防御側がボールを獲得した場合、「ア」まで下がった防御側のハーフバックは、獲得したボールをプレーするためにオフサイドラインを超えてプレーすることが許される。	
		確認 ハーフバックのサイドアタック不可	⑪ オフサイドラインはスクラムが終了するまで解消されない。スクラムはボールを獲得した側のハーフバックがボールを触った時点で終了する。 【例外】 スクラムに投入されたボールが、スクラムに参加していないプレーヤーのオフサイドラインに偶然達した場合、スクラムは終了する。	
			⑫ スクラムへのボールの投入は、ハーフバックが行う。ハーフバックは、⑪【例外】の場合を除き、いかなる場合でもスクラムから出てくるボールを扱う最初のプレーヤーでなければならない。	
			⑬ ハーフバックは、あたかもボールに触れたかのようなそぶりやボールに触れずに時間を空費する行為をしてはならない。	
		確認 タッチラインより5メートル、ゴールラインより3メートル以内でのスクラムは行わない。		

Ⅳ競技方法

	低学年	中学年	高学年	
5 ライン アウト	① ラインアウトは行わない。ボールがタッチになった場合、タッチになった地点がゴールラインから5メートル以内の場合はゴールラインから5メートルの地点より、それ以外はタッチになった地点より、投入側のプレーヤーが味方側にパスを行う。その際 相手側はボールがタッチになった地点より3メートル下がり 、ボールの投入を妨害してはならない。	ラインアウトは以下のように行う。なお、ラインアウトにおけるジャンパーに対するサポーティングプレーは禁止とする。 クイックスローイングは認められない。		
		① ボールがタッチになった場合、ラインアウトによって試合を再開する。		
		② ボール投入は、ボールがタッチになった地点から行う。ただし、ゴールラインから5メートル以内ではラインアウトは行わない。		
		③ ラインアウトに並ぶプレーヤーは1チーム2人である。先頭のプレーヤーはタッチラインから3メートル以内に立ってはならない。最後尾のプレーヤーはタッチラインから8メートルを越えて立ってはならない。		
		④ ボールを投入するプレーヤーの相手は、ラインアウトに近接して、タッチラインから3m以内の位置にいないといけない。		
		⑤ 双方のプレーヤーの2つのラインの間には明確な空間(1m)がなくてはならない。		
		⑥ ラインアウトが終了するまで、ラインアウトに参加していないプレーヤーはラインオブタッチから少なくとも5メートルは下がって		
	⑦ ボールが8mを超えて投げ入れられた場合、投入を再びやり直す。			
	確認 オフサイドの解消は、パスを受けた時点		【中学年限定】	【高学年限定】
			⑧ ボールの競い合いはなく、必ずボール投入側がジャンプしてボールを取る。	⑩ ラインアウトは次の場合に解消する。 ア) ボールをもったプレーヤーがラインアウトの列から離れたとき
		⑨ ボールを取ったプレーヤーは必ずハーフバックにボールをパスしなくてはならない。 ⑩ ハーフバックがボールをパスした時点でラインアウトは終了する。	イ) ボールまたはボールをもったプレーヤーが3mラインとタッチラインの間、あるいは8mラインを越えて移動したとき。 ウ) ラインアウトでモール・ラックができた場合、その密集に参加しているすべてのプレーヤーの足がラインオブタッチを越えて移動したとき。 エ) ラインアウトの列から自陣方向にパス・キック・タップされたボールにハーフバック役のプレーヤーが触れたとき。	
6 ファウル プレー 及び ペナルティ	(1) ファウルプレー： 罰則ペナルティ			
	① 以下のようなプレーはファウルプレーである。 ・防御の際に、相手をしっかりバインドせずに振り回す行為。 ・ボールを持っているプレーヤーをチャージしたり、突き倒したり、あるいはタッチラインの外に突き出したりする行為。 ・フェンドオフ(腕を横に振り、相手を払い除けるプレー)。 ・モール・ラックを崩す行為。 ・頭部を相手に打ち付けるような姿勢で突進する行為。 ・安全が確保できないような体勢でボールを拾う行為。 ・相手に怪我をさせるような行為。 ・地上にあるイーブンボールを相手陣に強く蹴り込む行為。(フライキック) これらの行為は、実際に起きた場合だけではなく、その危険性が予見されればファウルプレーである。レフリーはアドバンテージを適用することなく速やかに試合を停止する。			
	② 判定に対する異議、相手の反則のアピール、相手への礼を失した言動等、スポーツマンシップを損なう行為は厳禁である。			
	(2) ペナルティキックおよびフリーキック			
	① すべてのペナルティにおいて、反則を犯さなかった側は相手側が反則を犯した地点からタックルキックによってプレーを再開する。その際、相手側は反則のあった地点からゴールラインに平行して少なくとも5メートル下がる。			
	② 反則の地点が相手側ゴールラインから5メートル以内の場合は、マークは反則の地点を通る線上、ゴールラインから5メートルの地点でタックルキックを行う。			
	③ フリーキックも同様である。			
	確認 各学年ともオフサイドの解消は、タックルキックした時点とし、タックルキックしたプレーヤーがそのまま攻撃してもよい ハンドオフが顔にヒットした場合は、危険なプレーとみなす			